

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 9 月号

1. 広域果実選果場開所式

J A 鳥取いなばは 8 月 22 日、露地栽培の梨「二十世紀」の出荷を開始した。八頭町にある広域果実選果場で開所式を開き、関係者約 160 人が梨シーズンの到来を祝った。

台風 9 号の影響と長雨で生育への影響が懸念されたが、生産者の努力により順調に進み、同選果場では、「二十世紀」を 5 万 2 千箱（1 箱 10 ㎏）出荷し、販売金額は 2 億 5 千万円を計画して

いる。関西市場を中心として、県内市場や直売所、進物などに出荷し、有利販売に取り組む。



2. 福部未来学園らっきょう植え付け体験

鳥取市福部町の福部未来学園 6 年生 18 人が 8 月 26 日、同町海士で農水省の地理的表示（G I）保護制度に登録されている特産「鳥取砂丘らっきょう」の植え付けを体験した。

体験会では J A 鳥取いなば福部支店の職員が種らっきょうを植え付けるポイントを説明し、児童は種球約 100 ㎏を植え付けた。



3. J A グリーン 23 周年創業祭

J A 鳥取いなばは 8 月 28 日、資材館と農産物直売所「愛菜館」がある J A グリーン千代水店の大創業祭を開いた。8 月で創業 23 周年を迎え、より一層地元へ愛される店作りを行う。

生産者で組織する、同 J A 愛菜館運営協議会の田中会長は「多くの方に協力・協賛をいただき、2 年ぶりに開催できたことに感謝している。今後も来店者に喜んでもらえる商品を提供し、地域へ愛される店舗作りに励みたい」と話した。



4. はとむぎ茶リニューアル

J A鳥取いなばは、地元産はとむぎを使ったJ Aブランド「とっとりのはとむぎ茶」のペットボトルのサイズを350㍗から500㍗にリニューアルし発売した。

特産化を目指すはとむぎの消費拡大向け、手軽に飲めるペットボトル飲料として同商品を開発し、2011年8月から販売している。今回、消費者の需要に応え大容量にした。

同商品は、同J A各支店や農産物直売所、ネットショップで販売するほか、J A鳥取いなばグループの(株)トスク本店や行政関連の施設などでも販売している。



以上